

H26年産1番草サイレーシの品質

牧草の生育と収穫の状況

H26年度の牧草の生育と農作業は、図1の気象経過から以下のとおりとなりました。

- ① 早春の肥料散布が遅れずに出来た(一部雪解けの遅い草地を除く)。
- ② 6月の気温が高く、日照時間も多かったため、生育ステージが進み、出穂が4日早まった。
- ③ 収穫時期は降雨が少なく、7月上旬まで雨を当てずに作業できた。

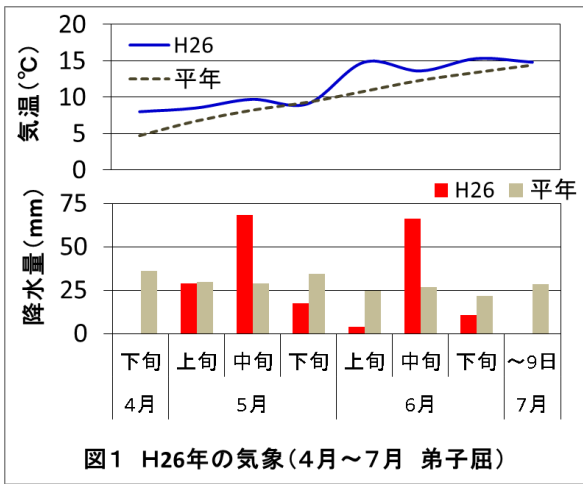


図1 H26年の気象(4月～7月 弟子屈)

サイレーシの状況

図2は、チモシー草地での栄養成分を示したグラフです。原料草の栄養価からサイレーシの特徴を考えると、

① 6月20日前後に収穫調整されたサイレーシは良質の可能性が高い(牛が良く食い、乳を出す。植生が悪ければ問題外)。

② 6月20日以降、原料草の水分と栄養の急激な低下がみられた(CP・TDNが低く、NDFが高い)。

③ 7月上旬の天気が良かったので、収穫期間が長いラップ調製農家で作業が順調に進み、サイレーシ品質のバラツキが少ない傾向がある。

- ① 6月20日前後に収穫調整されたサイレーシは良質の可能性が高い(牛が良く食い、乳を出す。植生が悪ければ問題外)。
- ② 6月20日以降、原料草の水分と栄養の急激な低下がみられた(CP・TDNが低く、NDFが高い)。
- ③ 7月上旬の天気が良かったので、収穫期間が長いラップ調製農家で作業が順調に進み、サイレーシ品質のバラツキが少ない傾向がある。

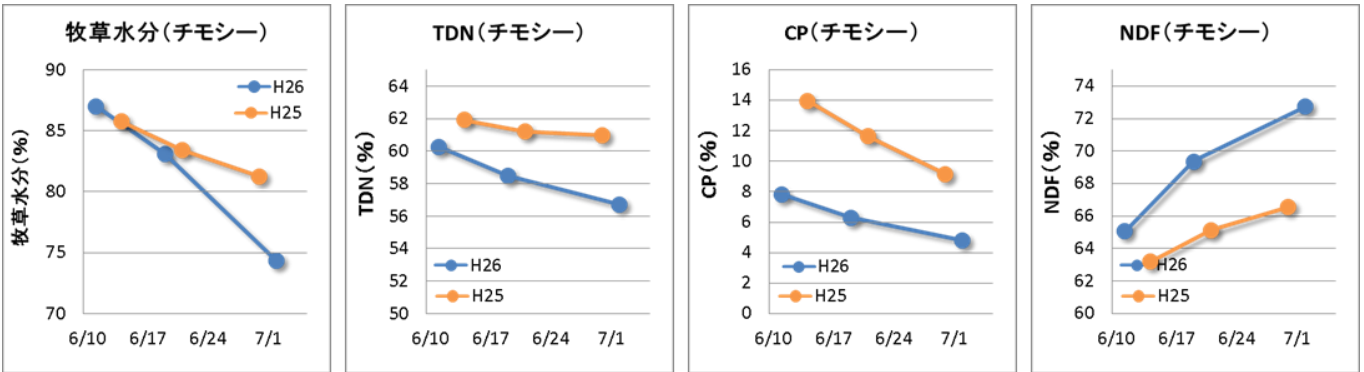


図2 釧路管内弟子屈町のチモシー主体草地における栄養変化

左から、牧草水分、TDN(可消化養分草量)、CP(タンパク質)、NDF(中性繊維)

- ① 踏圧不足による2次発酵が発生しやすい。夏場の取り出し方法やプロピオン酸の添加を検討する。
  - ② サイレーシの水分が低いため、TMR利用農家では**選り食いの心配がある**。加水や水分調整の工夫を積極的に取り入れる。
  - ③ サイレーシのセニイ含量が高いため、**乾物摂取量の低下の心配がある**。ラップ利用農家では、**切断給与などの工夫を考える**。
  - ④ 収穫期間での**栄養低下がいつもより激しい傾向がある**。特に**CPが低い傾向**にあり、乳量の低下が予想される。むやみに濃厚飼料を増やすとアシドーシスの原因に。エネルギーとタンパクのバランスに注意し、正しい給与戦略が必要。バルク乳のMUNも有益な情報になる。
  - ⑤ 高水分による、酪酸発酵サイレーシは**少ないと予想**。**どんどん食べさせよう!**
- ※飼料分析をオススメします